

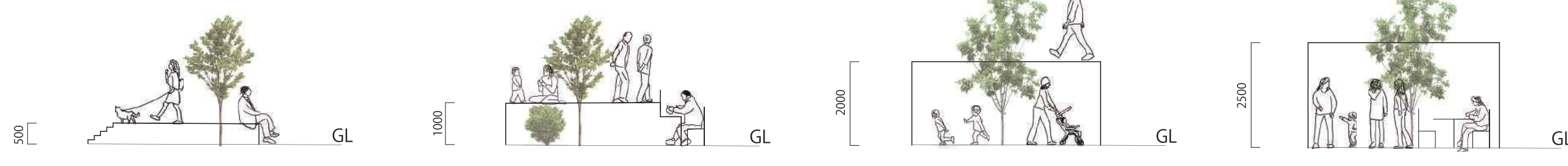
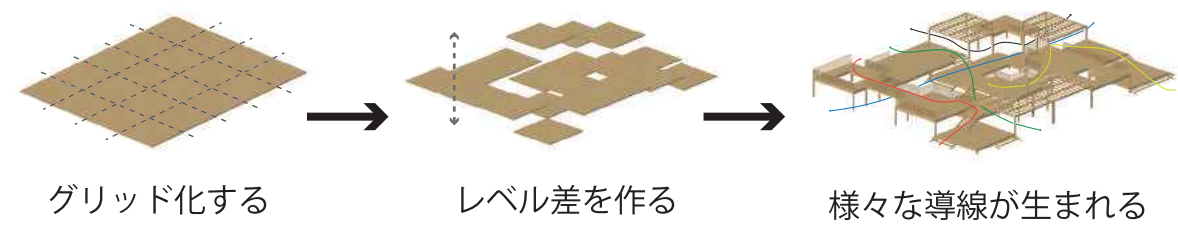
居場所の選択 ~フリーアドレス型木造パブリックスペースの提案~

人はその時々状況において快適だと思える温度が異なる。また、老若男女、様々な人が行き交う商業施設においてそれぞれ過ごしたいと思える空間は異なる。本計画は敷地をグリッド化し、レベル差をつけることで多くの居場所を提供しながら人の出会いに立体感を持たせる。また、そのレベル差によって生まれる空間を様々なパターンでの遮光率によって分けることで空間に温度差を生み出す。そうすることで最適な温熱環境の居場所の選択を可能にする。自然と調和する姿として木造を採用し、商業施設の利用客だけでなく散歩に来る人など、様々な人がこの空間を利用することで新たな出会いが生まれることを期待する。



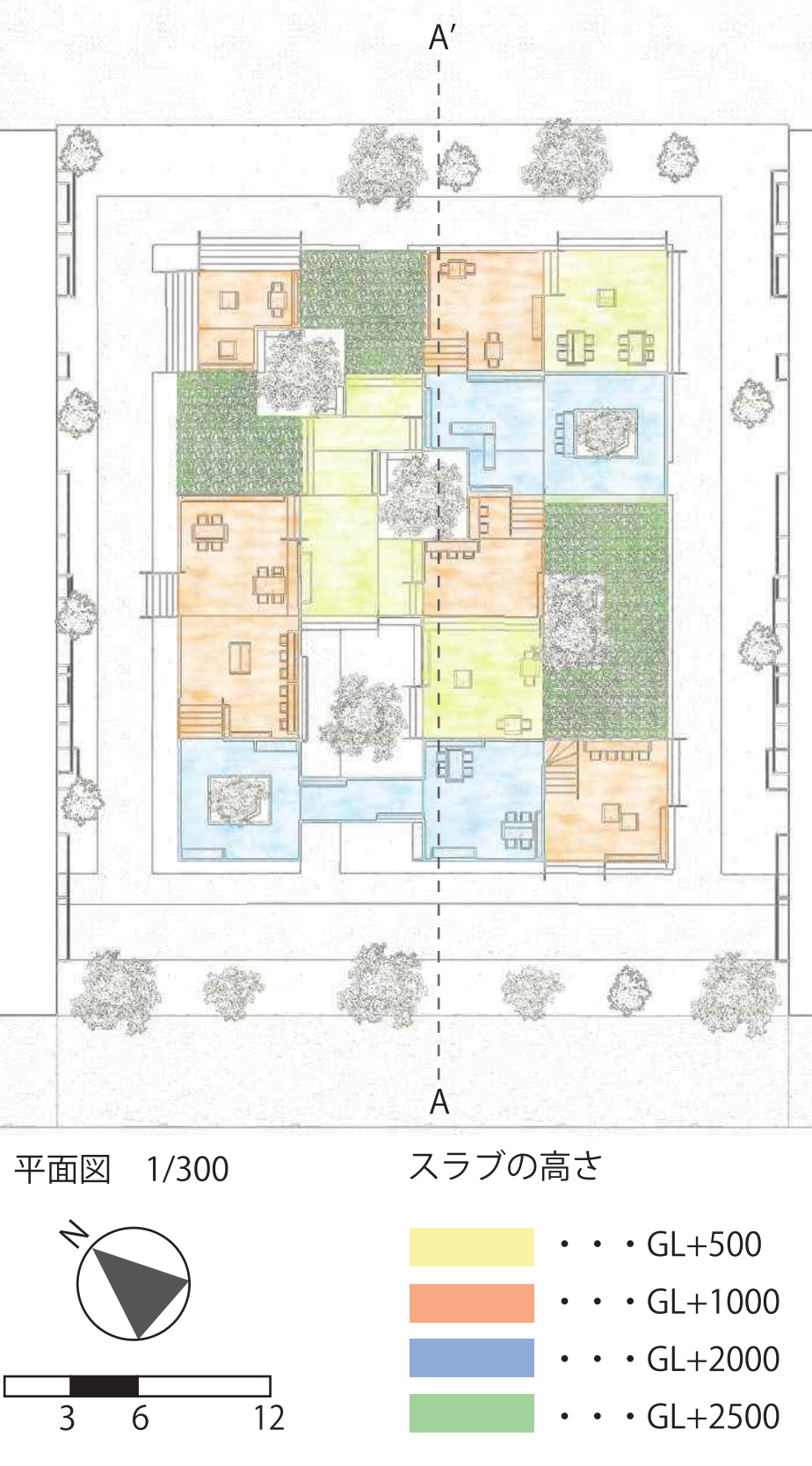
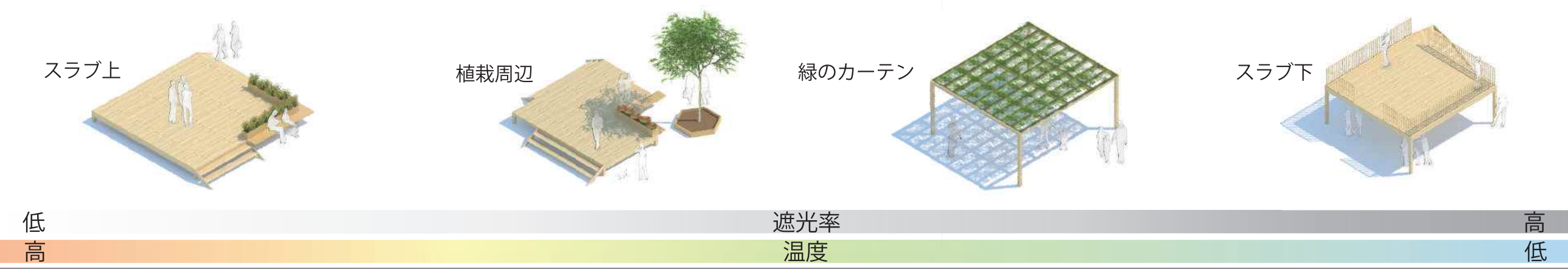
レベル差によって生まれる空間利用

本計画はGLからのスラブの高さを+500mm,+1000mm,+2000mm,+2500mmの4つのパターンに設定し敷地内にそれぞれランダムに配置した。+500mmのスラブは椅子としても利用でき、+1000mmのスラブは机としても利用できる。+2000mmのスラブは上下の空間を利用可能とし、+2500mmのスラブは光を遮光する屋根として変化する。このようにスラブを他の用途として利用したり、レベルを変化させ空間を生み出すことで様々な導線が生まれ、それにより人々の様々な行動を誘発させる。



遮光率による空間温度の操作

レベル差によって生まれた様々な空間に遮光率の異なる4つの空間となるように緑のカーテンや植栽を用いて計画した。遮光率の割合の違いは空間に温度差を生み出す。人は同じ空間であっても違った印象を持つ。例えば、日向で走っていた人と日陰で座っていた人、両者が同じ空間にいると一方は暑いと感じるかもしれないし、逆に寒いと感じるかもしれない。本計画は、遮光率の違いにより空間に温度差を生み出すことで、利用者自らがその状況、状態にあった1番快適な温熱環境の居場所を見つけその空間を選択し、利用することを期待する。



A-A' 断面パース

